



はんしん・あわじだいしんさい

阪神・淡路大震災から22年

1月17日：「ボランティアの日」





ヤル気 イッパイ ボランティア！



平成8年度「第1回ふくしま、ふくしボランティアフェスティバル」

○ ボランティア活動体験作文 中学生の部 最優秀賞

・三春中学校 田中(たなか) 歩(あゆみ) さん

彼女は、安積女子高校（現：安積黎明高校）に進学し、国際交流などに関心を持ち、将来は海外留学を夢見ていました。高校1年生の1月には青年海外協力隊で募集した「高校生エッセイコンテスト」に出品し、見事に入選しました。国際ライオンズクラブでは、毎年3回、各地区の若者を留学して派遣する「国際青少年交換事業」を展開し、郡山ライオンズクラブが一般公募を始めました。その公募を学校の掲示板で知り、応募。面接と英会話のテストを受け14倍の難関を突破し、平成10年12月にインドに留学しました。高校2年生でした。

しかし、留学先のインドで交通事故にあい、帰らぬ人となりました。これからというときに…。

彼女の作文を紹介します。ボランティアについて考える資料に。



ボランティアの意味：田中 歩（たなか あゆみ）





ボランティアの意味



「社会や人のためにつくすこと。」簡単にいえばそれがボランティアですよ。それならば、お店で働いている人や何かを作り、それを売っている人だってボランティアをしているのではないかと、そうは思いませんか。やはり人や社会に大きな役割を持っているのですから。それをボランティアと呼ばないのには、やはり何かわけがあるのです。



一番大事な「報酬を求めるものではない」ことです。報酬といっても色々あります。お金だったり物だったり。そういうような形のある報酬を求めるのはいけないのであって形のないものはよろこんで受け取るべきです。例えば、よろこびの言葉、うれしそうな笑顔、そしてなによりも「ありがとう」と言われれば、それ以上の報酬はありません。私の体験の中で一番印象に残っているでき事は、「大林文庫」という家庭文庫でのことです。

今から10年くらい前、私が5、6歳のころ、そこはできました。それから土曜日はほとんど毎週通っていました。けれど中学校に入ってから行かなくなってしまったのです。そしてつい先日、2、3年ぶりで行ってみると何一つ変わっていません。入口に泥まみれで立ってかけである竹馬も本の位置も、奥にある画用紙も、棚においてある紙芝居、そして壁に貼ってある小さい子が描いた絵も前と同じでした。そこで小学生よりも小さなかわいい女の子たちが何かやっていました。見てみると折り紙です。小さなその指でせっせと折っていたのです。もちろん字は読めませんから、本を見ているとその通りにはできません。何を折っているのか分からないけれど一生懸命でした。そこで、私がゆりの花を折ってあげるととてもよろこんで、そして本をつき出し、「次はこれを作って。」と指指しています。折っているのを見るだけで楽しいのでしょうか。じっと見ています。簡単な、花の折り方



ボランティアの意味

を教えると、あっという間に覚えてしまいます。しばらくたって折り紙にあきると、「今度はあの本読んで。」「絵をかこうよ。」と腕をひっぱります。

時間はすぐに過ぎてしまいます。その子たちの母親がむかえに来て帰り際、「また遊ぼうね。」そう言って笑ってくれた時、とてもうれしくなりました。今は毎週とはいきませんが時々遊びに行っています。今度は字を教える約束をしました。そんなささいなことでも十分報酬を受け取った気がするのです。



子供と遊ぶこと、お年寄りの世話をすること、ゴミを拾うこと。みんな当たり前のことです。このような当たり前のことをみんながやっているのならば、「ボランティア」という言葉はないはずですよ。特別な普通とは少し違うから、そのような言葉ができるのです。普通のことにようにやっていたら「ボランティアをする。」とは言いません。だからそういう言葉があることは、本来ならば悲しいことなのではないでしょうか。

「人間は、一人だけの力では生きていくことはできません。家族や地域の人々など、みんなが助け合い、支え合って、初めて幸せな暮らしをつくっていくことができるのです。」私が小学校の時、お世話になった

先生の言葉です。「ああ、そうか。」と思います。ボランティアの本当の意味はこういうものではないでしょうか。社会や人のために尽くし、誰か一人だけではなく、自分を含めたくさんの人と支え合い協力して幸せになっていくこと、そう思います。

「ボランティア」をすることが、特別なことにならないように、私たちは努力していくべきではないでしょうか。